

平成15年度冬作(麦類・いぐさ・水稻刈跡)関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成15年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成16年9月7日(火)、池之端文化センターにおいて開催された。

本年度供試された冬作関係除草剤は、作用性試験1剤、

適用性試験25剤で、生育調節剤はなかった。

このうち適用性試験については、慎重に試験成績を検討し、実用化についての判定を行った。

その結果は、次表のとおりである。

平成15年度 冬作関係除草剤・生育調節剤試験判定および使用基準

A. 除草剤

・I. 適用性試験

(1) 小麦

薬剤名	判定	使 用 基 準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1. AK-01 液剤 グリホサートイソプロピルアミン塩 41%	実	多年生イネ科雑草	茎葉	耕起7日以前 雑草生育期	500～750 mL 散布水量 50～100L	全土壌	北海道	1) 周辺作物に飛散しないように注意する。	
		一年生雑草全般			250～500 mL 散布水量 50～100L				
2. ANK-553 乳剤 ベンティメタリン 30%	実	一年生雑草全般	土壌	播種後～小麦2葉期	300～500 mL (出芽直前～出芽揃は	全土壌 (砂土を除く)	北海道	1) 覆土が著しく浅い場合には薬害が出やすいので注意する。 2) 小麦1～2葉期処理では、スズメノカタビラに効果が劣る。	
				播種後	300～400 mL) 散布水量 70～100L		東北以南		
				小麦1～2葉期、スズメノカタビラ1葉期まで					
3. BAG-014 フロアラル剤 ベンティメタリン 320g/L ピコリナフェン 16g/L	実・継	一年生雑草全般	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	300～400 mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	北海道	1) 一過性の白斑を生じることがある。 2) 小麦1～2葉期処理では、スズメノカタビラは生育が進むと効果が劣る。	・ 東北以南での効果、薬害の確認
			茎葉兼土壌	小麦1～2葉期					

注) _____は、拡大される部分を、_____は、一部拡大されることを示す。

薬剤名の _____は、初めて使用基準が作成されることを示す。

(1) 小 麦 つづき

薬剤名	判定	使 用 基 準						使用上の注意	継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用地域		
4. Hoe-866 液剤 グロホソネット 18.5%	実・継	一年生雑草全般	茎葉	耕起前7～14日 播種後出芽前 雑草生育期	300～500 mL 散布水量 100～150 L	全土壌	東北以南	1) 周辺作物に飛散しないように注意する。	・ 圃場周縁処理での効果、薬害の確認 ・ 播種後出芽前処理での効果、薬害の年次変動の確認
5. KNW-504 顆粒水和剤 フルフェナセット 60%	実・継	一年生イネ科雑草	土壌	播種後出芽前 雑草発生前 小麦1～2葉期	30～50g 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	東北以南	1) 砂質土壌では薬害が生じる場合がある。	・ 30 g での効果の確認 ・ 広葉雑草に対する効果について ・ 播種後出芽前処理での薬害の確認
6. KUH-901 乳剤 ベンチオカーブ 50% ベンデイメタリン 5% リニエロン 7.5%	実	(従来通り) 一年生雑草全般	土壌	播種後	400～600 mL 散布水量 70～100L 500～700 mL 散布水量 70～100L	全土壌 (砂土を除く)	北海道 東北以南	1) ヤムグライには有効な剤との体系処理を行う。	
7. MK-243U(H) 乳剤 ベフアルタミト (UBH-820) 25% インタノファン 25%	継								・ 効果、薬害の確認
8. MON-93A 液剤 グリホサートアンモニウム塩 33%	実・継	多年生イネ科雑草	茎葉	耕起7日以前 雑草生育期	250～500 mL 散布水量 25～100L	全土壌	北海道	1) 少量散布の場合は専用ノズルを使用する。 2) 周辺作物に飛散しないように注意する。	・ 500mL<水量25L>の効果、薬害の確認
9. MON-96A 液剤 グリホサートアンモニウム塩 41%	実・継	多年生イネ科雑草 一年生雑草全般	茎葉	耕起3日以前 雑草生育期 耕起10日以前 雑草生育期 播種後出芽前 雑草生育期	250～500 mL 散布水量 25～100L 250～500 mL 散布水量 25～100L 250～500 mL 散布水量 50L	全土壌	北海道	1) 少量散布の場合は専用ノズルを使用する。 2) 周辺作物に飛散しないように注意する。	・ 多年生イネ科雑草対象での500 mL<水量25L>の効果、薬害の確認

(1) 小 麦 つづき

薬剤名	判定	使 用 基 準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
10. NH-007 フロアフル剤 ビラフルフェンエチル 0.16% グリホサートイソプロピルアミン塩 30%	実・ 継	一年生雑 草全般	茎葉	耕起7日以 前 雑草生育期	400～600 mL 散布水量 100L	全土壌		1) 周辺作物に飛散しないように注意する。	・ 多年生イネ科雑 草に対する効果 の確認
11. SYJ-100 乳剤 プロホルホロフ 800g/L	実・ 継	一年生雑 草全般	土壌	播種後出芽 前 雑草発生前	400～500 mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を 除く)	北海道	1) 葉斑、黄化、縮葉な どの症状がみられる 場合がある。	・ 処理時期と薬害 の確認(北海道)
				小麦1～2葉 期					
				播種後～小 麦2葉期			東北以南		
12. ZK-122 液剤 グリホサートカリウム塩 43%	実・ 継	多年生イ ネ科雑草	茎葉	耕起3日以 前 雑草生育期	500～750 mL 散布水量 25～100L	全土壌	北海道	1) 少水量散布の場合は 専用ノズルを使用す る。 2) 周辺作物に飛散しないように注意する。	・ 散布水量100Lで の効果の確認

(2) 大 麦

薬剤名	判定	使 用 基 準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1. Hoe-866 液剤 グリホサート 18.5%	実・ 継	(従来通り：圃場周縁、出芽前処理は継続) 一年生雑 草全般	茎葉	耕起前7～ 14日	300～500 mL 散布水量 100L	全土壌		1) 周辺作物に飛散しないように注意する。	・ 圃場周縁処理、 播種後出芽前処 理での効果、薬 害の確認
2. KNW-504 顆粒水和剤 フルフェナセット 60%	実・ 継	一年生イ ネ科雑草	土壌	播種後出芽 前 雑草発 生前	30～50g 散布水量 100L	全土壌 (砂土を 除く)		1) 砂質土壌では薬害が 生じる場合がある。	・ 30 g での効果の 確認 ・ 広葉雑草に対す る効果について ・ 播種後出芽前処 理での薬害の確 認
				大麦1～2葉 期					

(2) 大 麦 つづき

薬剤名	判定	使 用 基 準						継続の内容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用地域		使用上の注意
3. MON-96A 液剤 グ リホサートアソモニウム 塩 41%	実 ・ 継	一年生雑 草全般	茎葉	耕起10日以 前 雑草生育期 <u>播種後出芽 前 雑草生 育期</u>	250～500 mL 散布水量 25～100L	全土壌		1)少水量散布の場合は 専用ノズルを使用す る。 2)周辺作物に飛散しな いように注意する。	・ 播種後出芽前処 理での年次変動 の確認
4. SYJ-100 乳剤 グ ロスルホカルフ 800g/L	実	一年生雑 草全般	土壌	<u>播種後～大 麦2葉期</u>	400～500 mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を 除く)		1)葉斑、黄化、縮葉な どの症状がみられる 場合がある。	
5. YF-65L 液剤 シ クワットジ ヴ ロミト 7% ハ ラコトシ クロリト 5%	実 ・ 継	一年生雑 草全般	茎葉	耕起前 雑草生育期 播種後出芽 前 雑草生 育期 <u>大麦生育期 雑草生育期 (圃場周縁)</u>	600～ 1000mL 散布水量 100L	全土壌		1)周辺作物に飛散しな いように注意する。	・ 圃場周縁処理で の年次変動の確 認
6. ZK-122 液剤 グ リホサートカリウム塩 43%	継								・ 効果、薬害の確 認

(3) 水稻刈跡

1. Hoe-866 液剤 グ ルホシネート 18.5%	継								・ 効果、薬害の確 認
2. NH-007 フロアフル剤 ヒ ラフルフェンエチル 0.16% グ リホサートイソプロピ ルアミン塩 30%	継								・ 効果、薬害の確 認
3. NHS-50 粒剤 塩素酸ナトリウム 50%	実 ・ 継	一年生雑 草全般、 <u>多年生イ ネ科 雑 草、マツハ イ</u>	土壌	水稻刈取後 雑草生育期	20～25kg	全土壌	東北以南	1) 均一に散布する。	・ 多年生イネ科雑 草に対する薬量 と効果の確認

(3) 水稻刈跡 つづき

薬剤名	判定	使 用 基 準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
4. ZK-122 液剤 グリホサートカリウム塩 43%	実・継	一年生雑草全般	茎葉	水稻刈取後 雑草生育期	250～500 mL 散布水量 25～50L	全土壌	東北以南	1) 専用ノズルを使用する。	・ 多年生雑草に対する効果の確認
		多年生雑草全般			500～ 1000mL 散布水量 25～50L				
5. AK-01 液剤 グリホサートイソプロピルアミン塩 41%	継								・ 効果、薬害の確認

(4) 水田畦畔

1. DBN6.7 粒剤 (北興化学) DBN 6.7%	実・継	一年生雑草、多年生広葉雑草(マメ科雑草を除く)	土壌	秋冬期～春期(雑草発生前～始期)	4～6kg	全土壌			・ 秋冬期処理の年次変動の確認
2. DBN6.7 粒剤 (アグロネーション) DBN 6.7%	実・継	一年生雑草、多年生広葉雑草(マメ科雑草を除く)	土壌	秋冬期～春期(雑草発生前～始期)	5～6kg	全土壌			・ 年次変動の確認

日本帰化植物写真図鑑

清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七／編著 B6判 548頁 本体価格4,300円

●帰化植物630余種を1,700余点のカラー写真で紹介。飼料作物畑の雑草害と対策も解説

全国農村教育協会
http://www.zennokyo.co.jp

〒110-0016 東京都台東区台東1-26-6
TEL03-3833-1821 FAX03-3833-1665